

障害福祉分野の ICT 導入モデル事業における導入事例

法人名 特定非営利活動法人 b-らいふ
事業所名 b-らいふ・キャンパス
理事長 永森 栄一

1. ICT 機器の製品名

- ・ノートパソコン（事業対象）
富士通 FMV LIFEBOOK AH50/H1 FMVA50H1SK 5台
- ・タブレット PC（事業対象外）
TECLAST Tablet PC P30T 8台
- ・障害福祉業務支援システム（事業対象外）
リクルート knowbe

2. ICT 機器導入前の課題

職員数に対してパソコンの台数が少なかった。

このため、支援記録等の各種情報や支援ツール等の作成にかかる負荷が一部の職員に集中していた。

またすべての資料が、印刷された様式に手書きであったため、用紙が大量に必要であった。

3. ICT 機器導入の推進方法

令和6年1月ごろから順次、ノートパソコンを1か所の事業所に2台、2か所ある出張所に2台と1台を設置した。

令和6年4月から別途、クラウド上の障害福祉向けの業務支援システムを導入した。

システムを使用するためにタブレット PC も8台導入した。

4. ICT 機器導入後の成果

①業務効率化について

(具体例を記載)

令和6年4月から業務支援システムを使い、利用者さんの各種情報（利用記録のためのタイムカード、作業時間、支援日誌、業務日誌）の管理を始めている。

また当該システムを導入したことより、印刷で使用する用紙も大幅に減少した。

②職員の負担軽減について

(具体例を記載)

ノートパソコンは、各所で最低1台以上、およそ職員2～3名あたり1台となる。

それぞれの使用時間を分けることにより、各職員がパソコンを使用できる環境を準備した。

このように対応することにより、特定の職員に集中してかかっていた負荷の軽減を目指した。

5. 今後の課題

パソコンの使用に不慣れな職員への教育。

6. 写真

